

二次救急医療機関の現状と問題点

医療法人社団直和会 平成立石病院

医療法人社団正志会 南町田病院

理事長 猪口正孝

2次救急医療

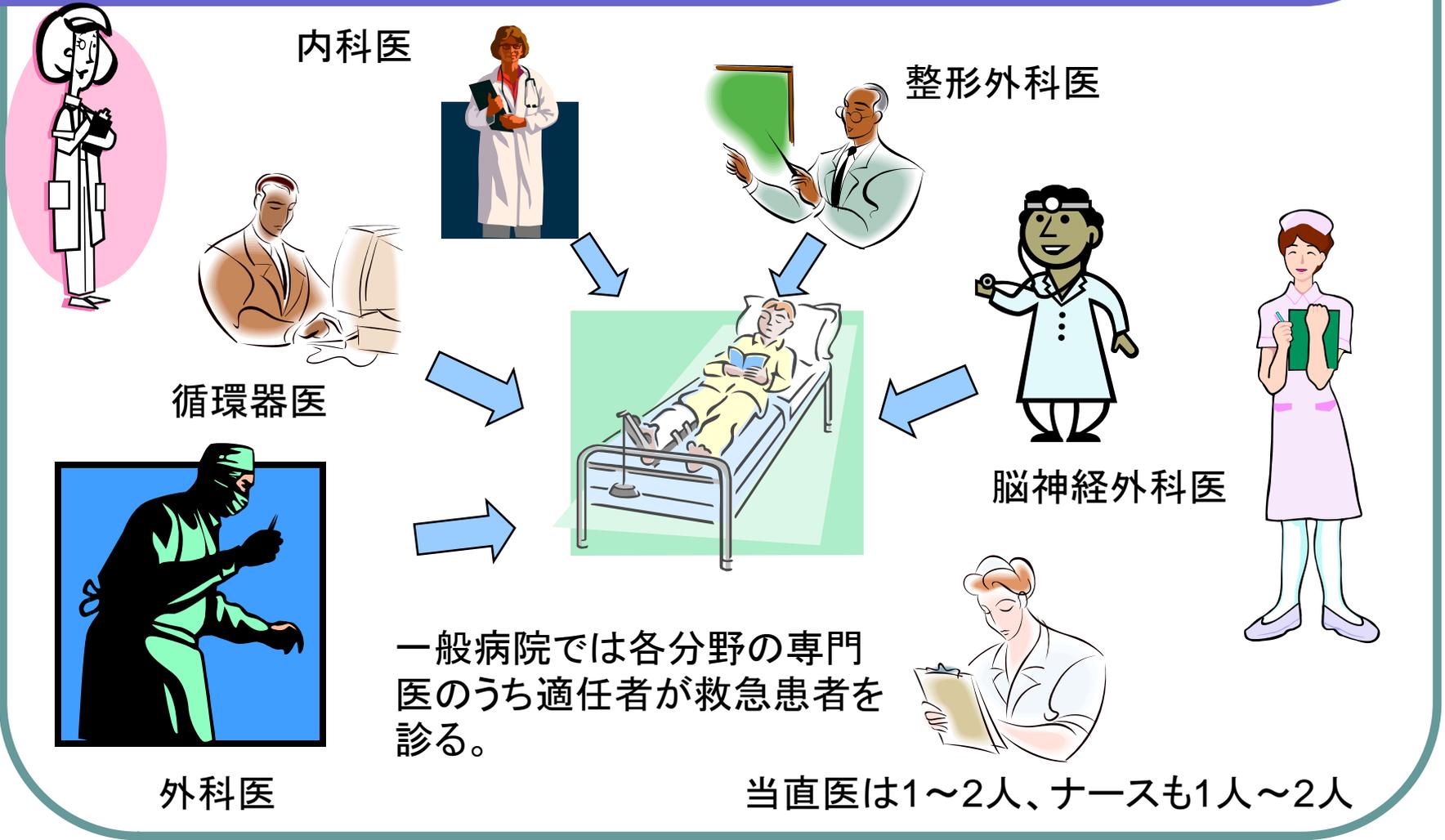
- 東京都では休日全夜間診療事業を行い 参加病院を2次救急病院と指定している

平成19年度 東京都の救急活動状況

搬送人員	625,713	人
2次救急施設	266	病院
病院選定困難症例	約6	%

選定困難症例は1日約100人

多くの二次救急病院での救急対応



二次救急病院が患者を受入不可能とする理由

- **物理的問題**

満床、処置中など

- **医学的問題**

開放骨折、吐血、結核、大量服薬
自殺企図、精神疾患、
急性アルコール中毒など

- **社会的問題**

など

背景

1. 医師の意欲低下

- 当直医師は自分の専門以外はとらない
- 面倒そうな症例は受け付けない

2. 東京の特殊事情 「最後の砦意識」の欠如

- 医療機関が多い
- 救急隊が多い
- 専門医志向

3. 経営上

- 救急医師の確保が困難
- 入院長期化になりそう

医師の意欲低下

- 当直医師は自分の専門以外はとらない
- 面倒そうな症例は受け付けない

東京の特殊事情 「最後の砦意識」の欠如

- 医療機関が多い
- 救急隊が多い
- 専門医志向

経営上

- 救急をやる医師の確保が困難
- 入院長期化になりそう

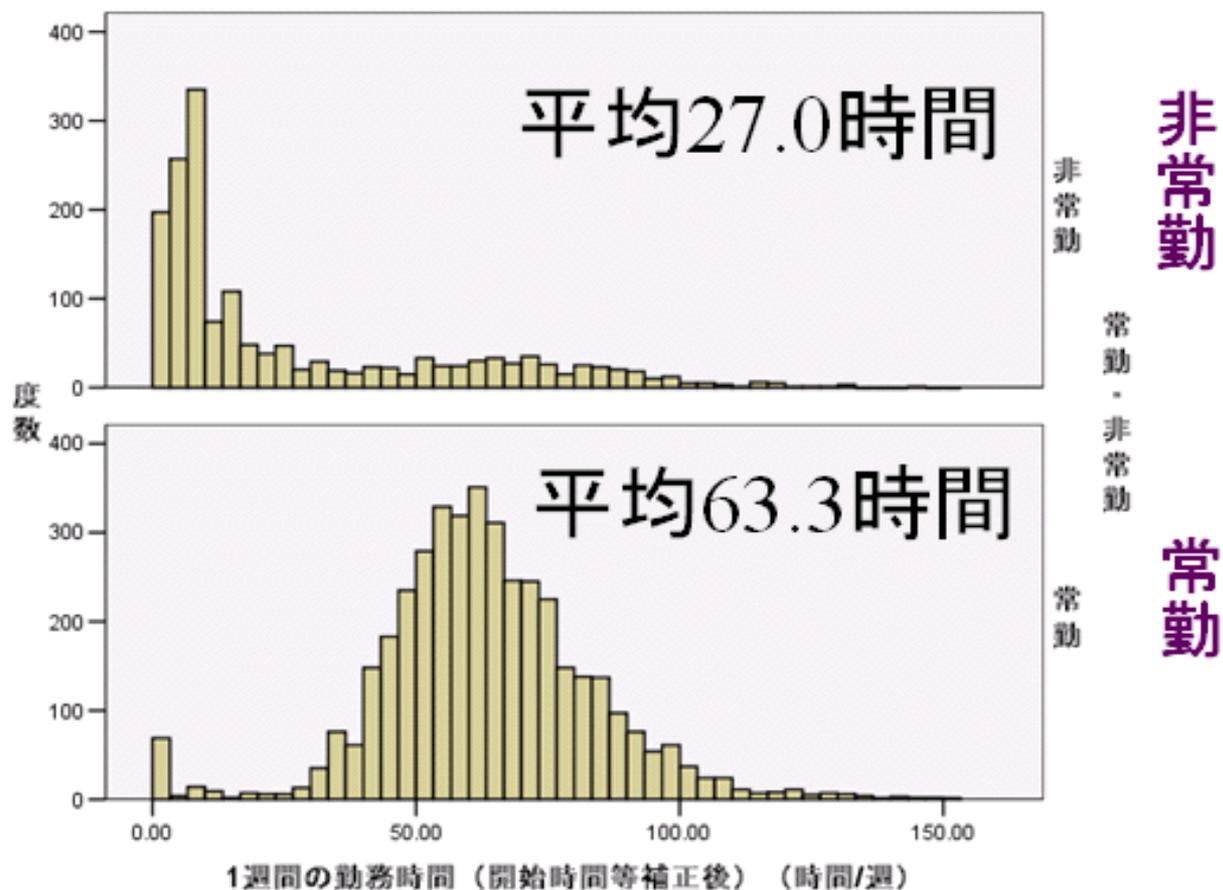
一般病院勤務医が感じていること



東京都病院協会アンケート 2007年12月

- 忙しすぎる。
- 健康に不安を感じる。
- 休みが取れない。
- 休憩時間が取れない。
- 仕事が終わらない。
- 仕事が煩雑で嫌気がさす。
- 難しい仕事はしたくない。訴えられたくない。
- 責任が重過ぎる。仕事を辞めたい。
- 子供は医師にしたいくはない。

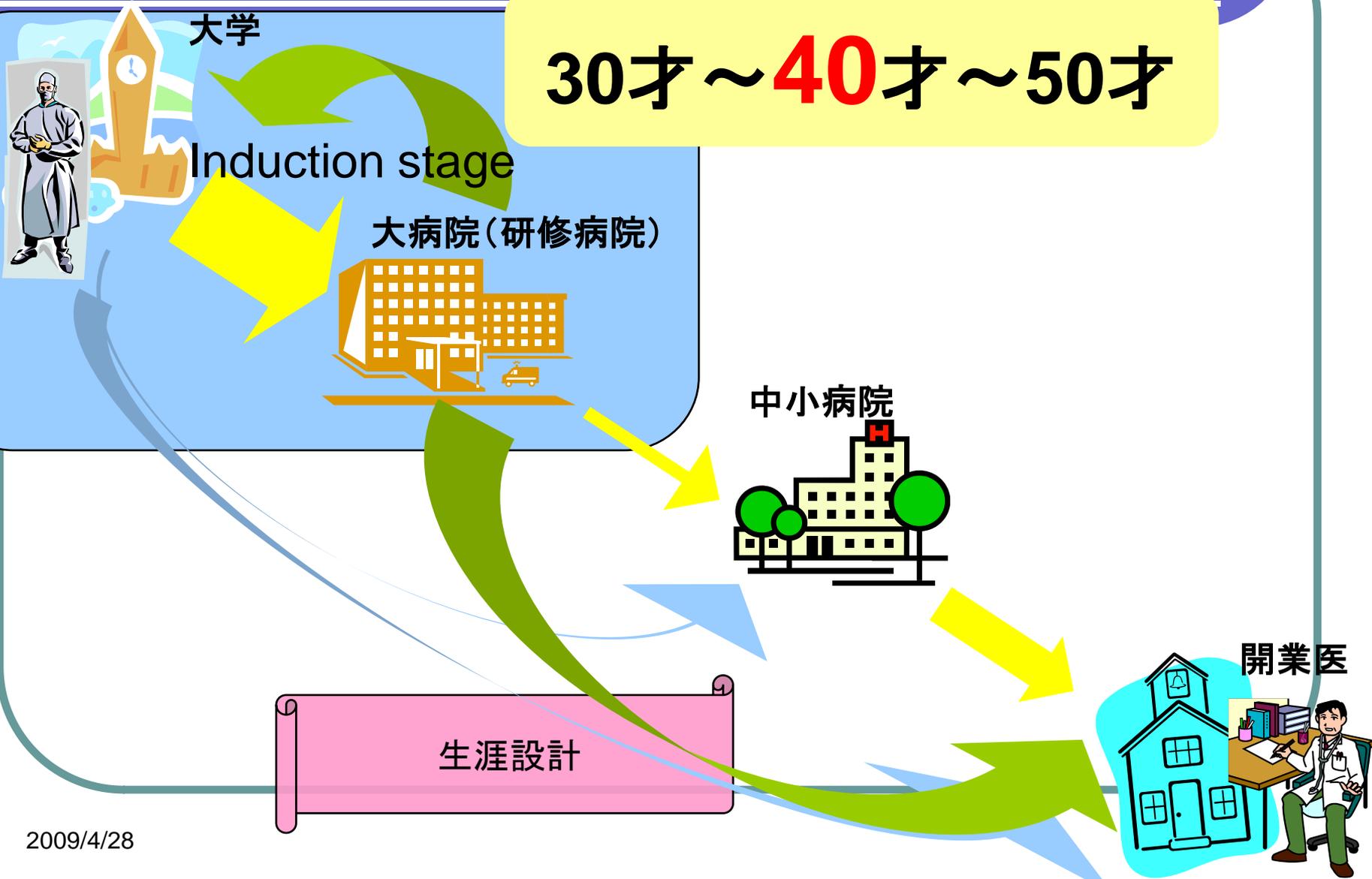
病院医師の1週間当たり勤務時間(院内)



国立保健医療科学院 タイムスタディ

医師の大卒後の進路

30才 ~ **40**才 ~ 50才



背景

医師の意欲が低下していることによる問題

- 当直医師は自分の専門以外はとらない
- 面倒そうな症例は受け付けない

東京の特殊事情

- 医療機関が多い
- 救急隊が多い
- 専門医志向

経営上による問題

- 救急をやる医師の確保が困難
- 入院長期化になりそう

「最後の砦意識」の欠如

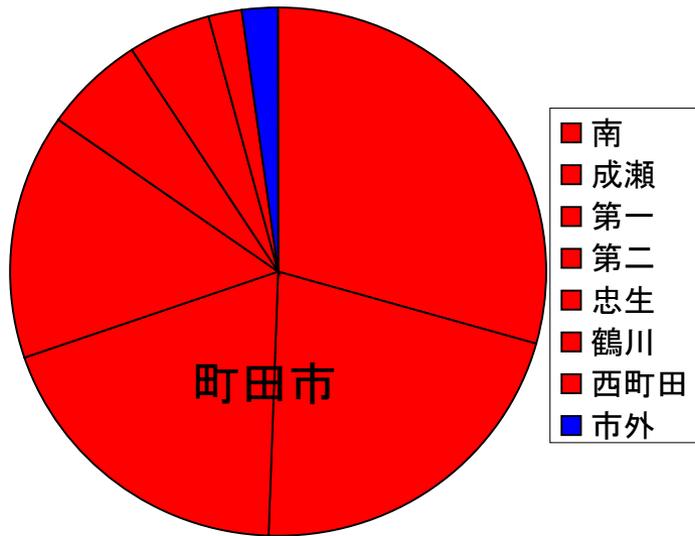
応受率 97%と55%の差は



180床
2873台
応受率 97%

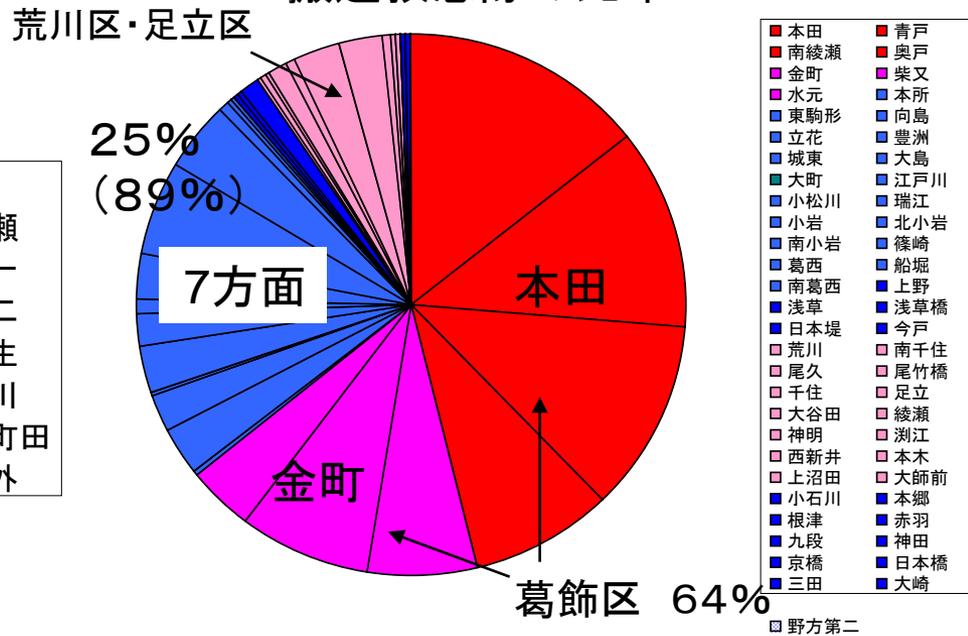
救急応受率と搬送救急隊比率

南町田病院
搬送救急隊の比率



搬送台数2872台
応受率 97%

平成立石病院
搬送救急隊の比率



搬送台数3665台
応受率 55%

背景

医師の意欲が低下していることによる問題

- 当直医師は自分の専門以外はとらない
 - 面倒そうな症例は受け付けない
- 東京の特殊事情 「最後の砦意識」の欠如
- 医療機関が多い
 - 救急隊が多い
 - 専門医志向

経営上による問題

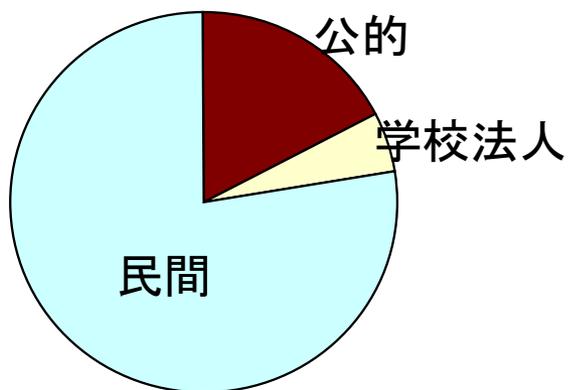
- 救急をやる医師の確保が困難
- 入院の長期化
- 未納など

東京都の一般病院・一般病床と救急患者の開設主体別収容人数



東京都の一般病院と一般病床の開設主体

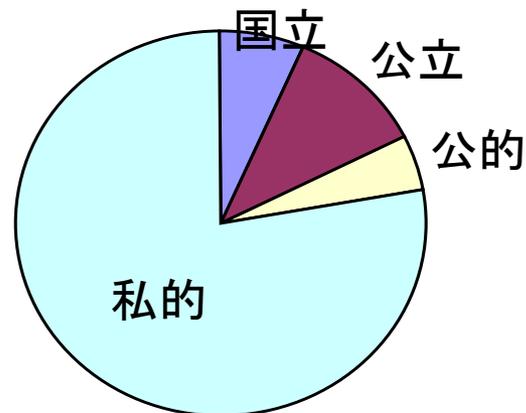
	病院数	(%)	病床数	(%)
都内病院総数	613	100	83437	100
公的な機関	107	17.5	31924	38.3
学校法人	31	5.1	17410	20.9
民間	475	77.5	34103	40.9



病院数

東京都の救急患者の開設主体別収容人数

総数	643849
国立	42350
公立	71714
公的	29343
私的	500441



収容人数

今度の改革 東京ルール I

地域救急センター

東京の特殊事情に配慮したものである

- 「最後の砦」意識
- 救急隊、医療機関相互の情報を公開する

- 医療とは別の社会問題の受け皿にされている
- 医師の意欲向上は考慮されていない
- 医師の確保については病院任せ

今度の改革

救急医療機関勤務医師確保事業
産科医等育成・確保事業



Drに対する当直手当・出産手当

- 低い給与
- 医師確保
- 多忙には配慮していない
- 患者を受け取るために看護師、検査、事務、病棟、設備投資などの原価がかかっているのに配慮なし
- 病院には当直医師が必要であるが、救急病院と他の病院との当直量の格差。